

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和8年4月分）

【製造業】

○製造業は、2月の鉱工業生産指数は前月比10.9%の上昇となった。ヒアリングでは、航空部品については急激な需要の拡大に伴い生産能力をオーバーしているとの声がある一方、取引先に商品がなく受注停止となり、工業用潤滑油の仕入れができておらず、今後生産が滞る可能性があるとの声もあった。

○地場産業は、2月の鉱工業生産指数はパルプ・紙、木材・木製製品、家具で下降した。ヒアリングでは、インバウンドの影響で人気観光地へのお土産用和紙製品の出荷が増加しているとの声が聞かれた一方、中東情勢の影響で鋼材費や燃料の仕入れ価格が急激に上昇するなど一部原材料にも影響が出ているといった声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、2月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比28.1%増加となった。ヒアリングでは、27年春には老朽化した全機械を入れ替え省エネ化する予定とした声がある一方、社会情勢や人件費高騰を鑑み投資に踏み出せないといった声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、2月の販売額は、全体で前年同月比2.1%増加となった。ヒアリングでは、客単価は昨年割れの状況だが、売上や客数は前年をやや上回る堅調な動向であるといった声とともに、商品の仕入れ条件が厳しくなり、価格上昇の傾向が続く見込みといった声もあった。

【観光】

○宿泊者数は、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。

○宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

○2月の制度融資実績は金額で4ヶ月ぶりに増加となった。金利負担の実感が出始めるとともに、中東情勢の影響により、原材料の仕入れが難しくなるのではないかと懸念している事業者が多く、いつでも原材料を仕入れることができるように運転資金を多めに借りる事業者もいるとの声が聞かれた。

【雇用】

○3月の有効求人倍率は1.39倍と前月比▲0.02となった。ヒアリングでは、大手の賃金上昇率についていけず人材集めに苦労していることや、若い人材が雇用できず、工場内の高齢化が進んでいるといった声もあった。

【景気動向】

2月の景気動向指数（一致指数）は前月比2.0ポイント上昇、3月の中小企業の景況感は同▲4.0ポイント減少となった。